

# 聖書の教える 癒やしとは？

癒やしのセミナーやプログラムは本当に聖書的？

# アウトライン

## I. イントロダクション

癒やしを求める人々

## II. 聖書における癒やし

## III. 聖書の教える「しるし」

## IV. 待ち望むべきは究極の癒し





# I. 癒やしを求める人々

黙示録21:1～22:5

# 人気?!の癒やしグッズ いろいろ



どんどん広がる癒やし市場!!



# 教会でも広がる癒やしのプログラム



- 教会の中で、流行廃りを繰り返している  
いろいろな癒やしのプログラム。  
はまってしまおう人々は、牧師や信徒も後を絶たない。
- 癒やしを入り口にして、明らかに異端の教えや、  
カルト的グループに取り込まれてしまおう人もいる。



強力な魅力があるということ

## 癒やしにはまるクリスチャンの特徴や動機のいろいろ…

- 心や体が癒やされた、というなんらかの体験をした。
- もともと不可思議なことに魅力を感じていた。
- 病んだ人と接する機会があって苦勞してきた。
- 他者に影響力を持ちたい。
- 伝道がうまくいくように、教会にもっと人を惹きつけたい。

# 癒やしについて確認しておきたいこと

- 癒やされたいと願うのは自然なこと。
- もちろん、神様に癒やしを求めて祈っていい。
- 奇跡的な癒やしを体験した人もいる。
- 一方で、癒やされなかった人もいる。

# 癒やしについての私の基本的立場

- 癒やされることもある。  
奇跡的な癒しを体験する人もいるだろう。
- 一方で、いくら祈っても癒やされない人もいる。
- 信仰深さと、癒やされるかどうかとは、別のこと。
- 癒やしを強調すると、おかしくなる。



## 癒やしについての聖書の結論

- 癒やし云々を強調する時点で、問題外。  
信仰の未熟さ、あるいは不信仰の表明でしかない。
- 誰でも癒やせるという主張は、偶像礼拝的異端。  
神の主権を奪うもの。聖書の癒やしの主権は、神にある。
- すべての信者が求め、握りしめるべき**真実の癒やし**は、  
再臨の主イエスがもたらされる**永遠の命**である。



## Ⅱ. 聖書における癒やしとは

## 【聖書における病気の起源と癒やしの原則】

### ■ アダムとエバの罪の結果生じた苦しみ

- \* 男には、労働の苦しみ、
- \* 女には、出産に伴う苦しみ

### ■ 神との断絶が死。

肉体的な死も、病も、人の罪の結果。

### ■ 神との関係の回復は救い主の御業。

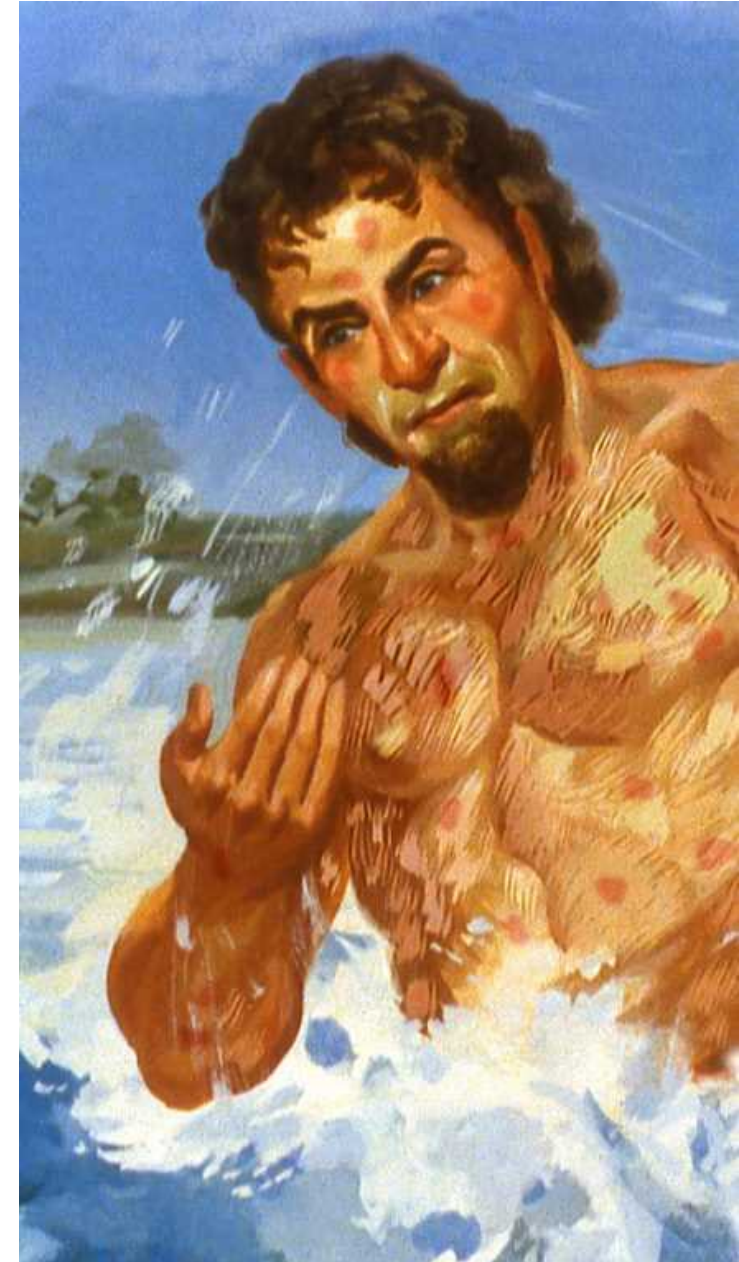
- ➔ 神と人の関係が完全に回復されるとき、  
完全な癒やしがもたらされる。



## 【旧約聖書における癒やしのできごと】

### ➡実はとても少ない癒やしの記述

- 神の裁き、試練としての病と癒しはあるが...
  - 義人ヨブの試練
  - エジプトへの災い
  - ミリアムへの戒め
- 純粹な病の癒やしは、預言者エリシャが初。
  - ➡異邦人の将軍ナアマンの癒やし(Ⅱ列5章)。
- 預言者イザヤの時代
  - ➡ヒゼキヤ王の癒し、15年の延命(Ⅱ列20章)。



## 【新約聖書における癒やしのできごと】

■ 公生涯の前半、イエスは無差別に多くの人を癒やした。

■ イスラエルが公式にイエスを拒んだ後は、  
イエスをメシアと信じた者と家族だけが癒やされた。

■ 使徒たちによる癒やしは、

① 聖霊降臨が起こったエルサレムで頻発。

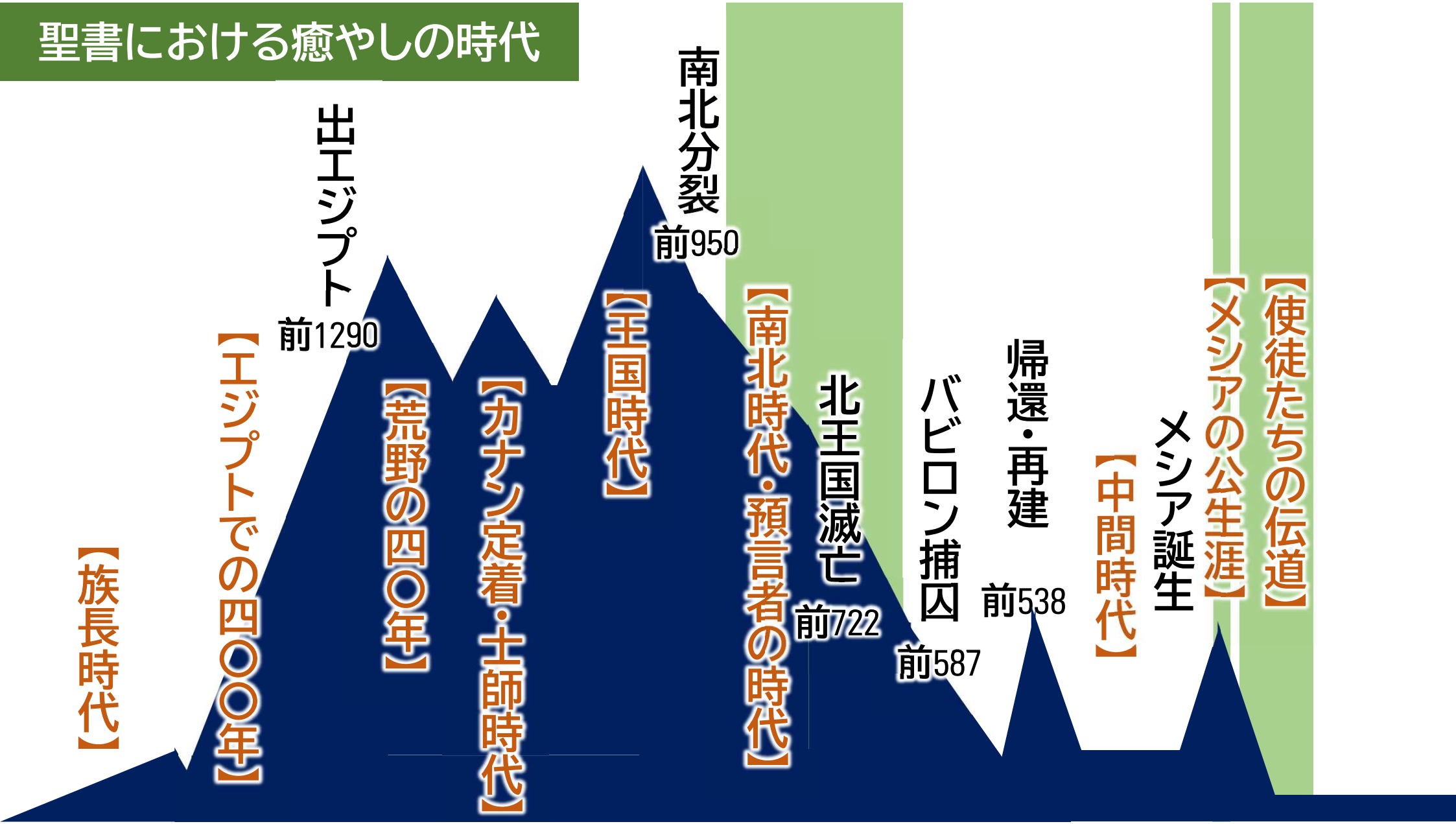
➡使徒ペテロを通して

② 異邦人伝道の広がりと共に、各地で頻発。

➡使徒パウロを通して



# 聖書における癒やしの時代



## 【旧約聖書における癒やしの意味とは？】

- 純粹に病が癒やされた出来事は数例のみ。
- 神への背きに対する罰として病がくだされ、悔い改めた者への憐れみとして癒やされる。
  - ➡ ほとんどは、このケース  
**神への立ち返り**を人々に促すもの
- 預言者の時代の癒やしは、  
預言者の**預言の正しさ**を保証する「しるし」



## 【新約聖書における癒やしの意味とは？】

### ■ 公生涯前半のイエスの癒し

➡「イエスこそメシア」という**証拠**。しるし。

イスラエルが受け入れれば神の国が実現した。

### ■ 公生涯後半のイエスの癒し

➡イエスをメシアと信じた者へのしるし。

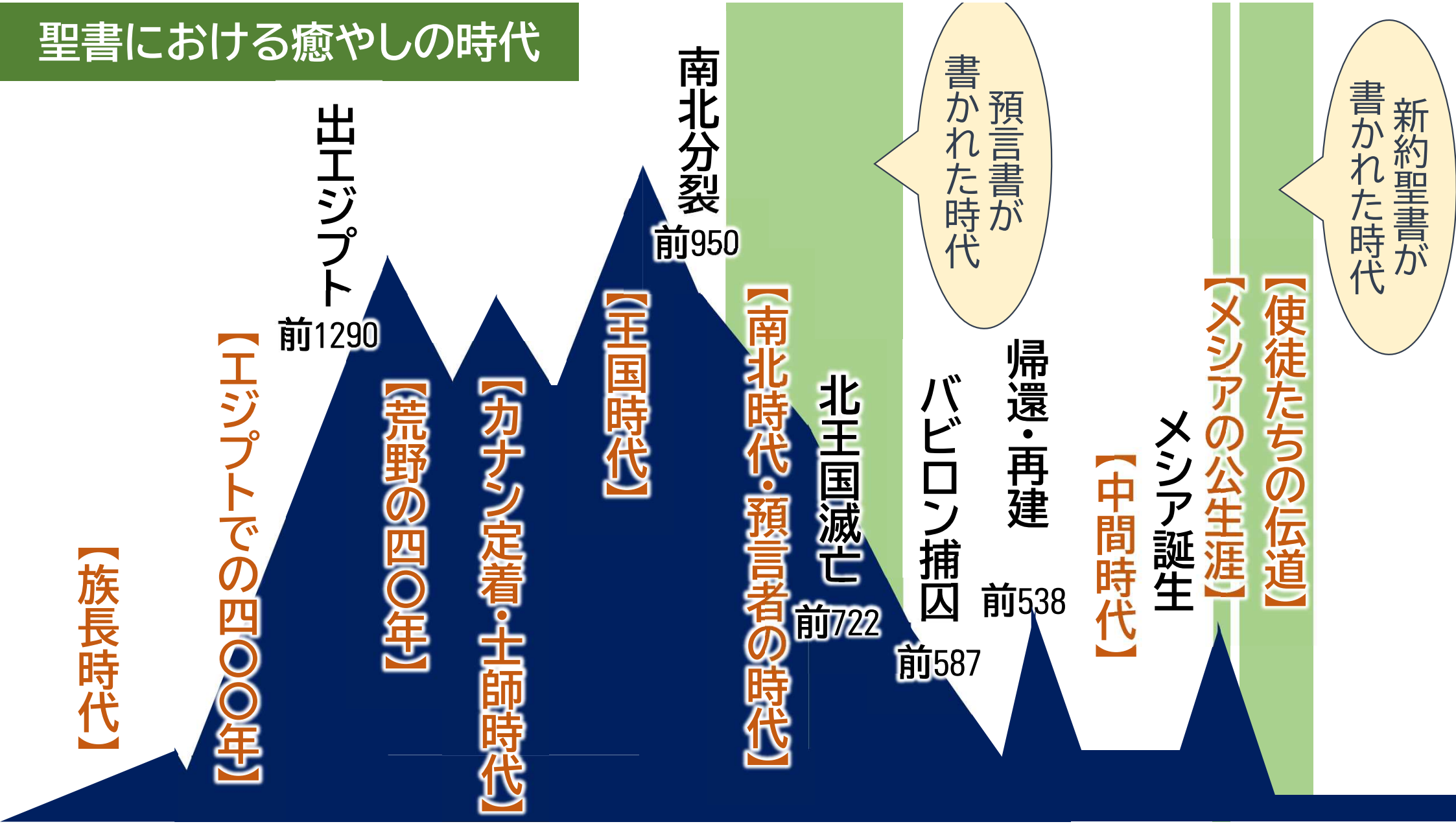
### ■ 使徒たちの癒し

➡使徒たちの**教えの正統性の保証**。しるし。





# 聖書における癒やしの時代



## 【癒やされなかった信仰者たち】

- 老い、弱っていったイサクやダビデ。
- 出産に伴って死んだヤコブの妻ラケル。
- 生涯癒やされない「とげ」を抱えていたパウロ。
- たびたび病気を患っていたテモテ。
- 癒やされ15年延命したが、やがて支配者となるバビロンの使者を都に呼び込んだヒゼキヤ。

癒やされた者も  
癒やされなかった者も  
皆、最後は死んだ



## 【聖書が教える癒やしの意味】

- 聖書の癒やしには、必ず意味がある。  
癒やされないことにも、やはり意味がある。  
➔ 大事なのは意味を受け取ること。
- 最も重要な癒やしの意味は、**御言葉の保証**。  
➔ 預言者や使徒の言葉を神が保証するもの。
- 一番大切なものは、**保証された神の御言葉**。  
➔ 聖書を学び、理解することが第一！

聖書の癒やしは、御言葉の正統性のしるし



## 【癒やしの強調の危険性】

- 癒やされたという体験の強調。
  - ➔ 癒やしの意味が問われない。
  - ➔ 聖書の学びはおろそかに。

- 癒やしが目的に。
  - ➔ ただの御利益宗教に。
  - ➔ 自分の思いを正当化するための聖書引用。  
神に聞き従うのではなく、私利私欲のため。

- カルト化の引き金に。
  - ➔ 果てのない癒やしに捕らわれる魂。
  - ➔ 癒やされないのは不信仰？ 強力な霊的支配。

自分の癒しにしか関心がない  
癒やしに捕らわれた心  
それこそ、罪





### Ⅲ. 聖書の教える「しるし」

## 【最大のしるしは、メシアのしるし】

■ イスラエルは、イエスにメシアのしるしを求めた。

マタ 12:38 そのとき、律法学者、パリサイ人のうちの何人かがイエスに「先生、あなたからしるしを見せていただきたい」と言った。

■ イスラエルはメシアを拒み、しるしは与えられなくなった。唯一のしるしが、蘇り。**復活**。

➡ラザロの**復活**

➡イエスの**復活**(目撃できたのは信者のみ)

マタ 12:39 しかし、イエスは答えられた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし**預言者ヨナのしるし**は別です。」



## 【しるしを見ても、信じない者は信じない】

- メシアの証拠である驚異的なしるしを目撃しても、イスラエルの多くは、イエスを信じなかった。

ヨハ 12:37 イエスがこれほど多くのしるしを彼らの目の前で行われたのに、彼らはイエスを信じなかった。

- どんな奇跡的な癒やしを体験しても、信じない人は信じない。**しるしと信仰とは全く別。**



## 【弟子たちによる癒やし・しるし】

### ■信じる者は癒やしを起こせる？

マル16:17～18 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んででも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

### ■弟子たちが告げる御言葉の権威の確証のため。

➡新約聖書の権威、正統性のしるし。

マル 16:20 弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた。





## 【しるしを求めるのは不信仰者】

■ 信者はしるしを求めず、福音を宣言する。

I コリント 1:22～24

ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。

しかし、私たちは十字架につけられたキリストを  
宣べ伝えます。

ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが、ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。



## 【世の終わりの悪による偽のしるし】

■ 終わりの時代、しるしは神のしるしにならない。  
悪魔によっても、多くのしるしが起こされる。

■ 終わりの時代へのイエスの警告

マタイ 24:24 偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、  
できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きな  
しるしや不思議を行います。

■ 癒やしを強調し、癒やしの正統性を訴えるクリス  
チャンは、まさにサタンの術中にはまっている。



大患難時代を  
先取りする現象

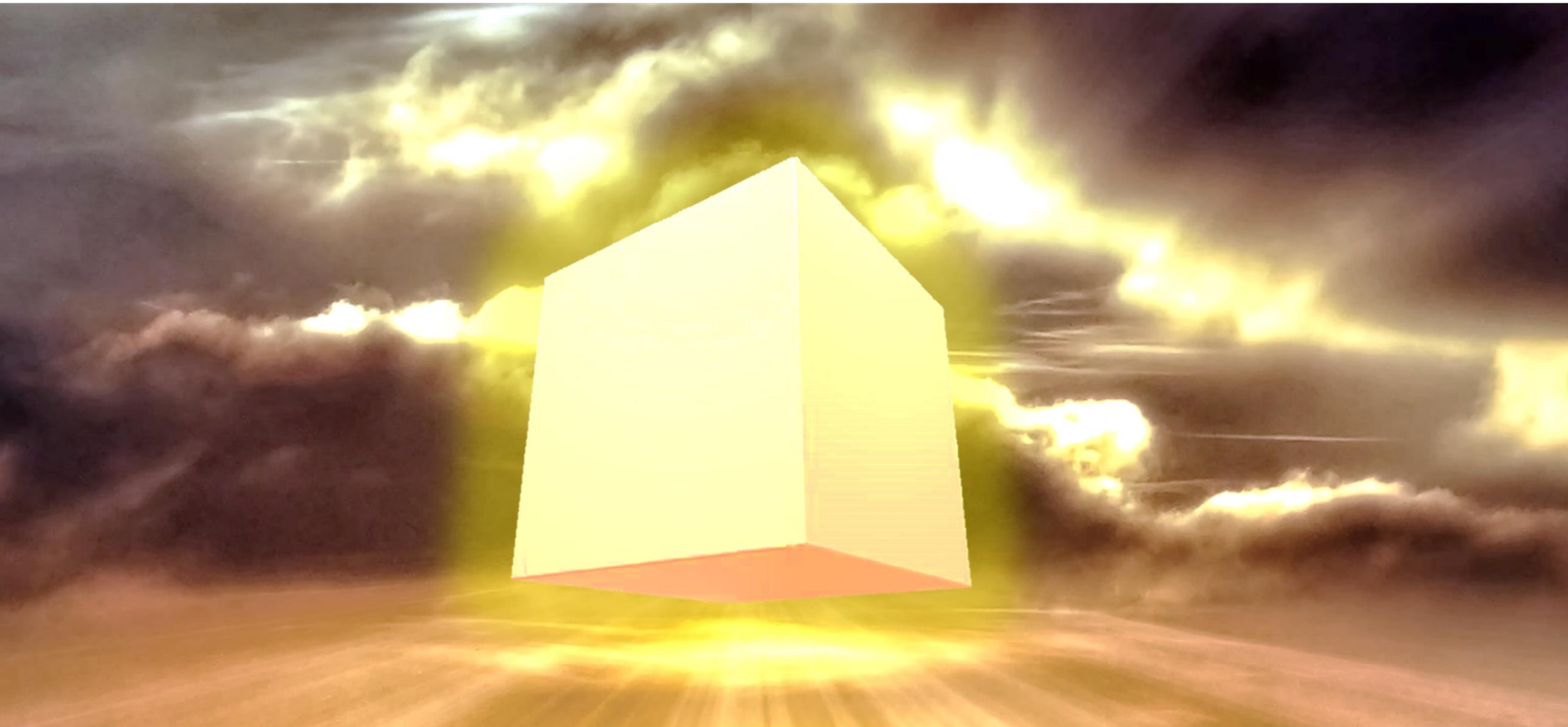
## 【信者の正しい信仰生活こそ、しるし】

■福音にふさわしい生活、信仰による一致こそ、  
信者が証しすべき、救いのしるし。

ピリピ1:27～28

ただ**キリストの福音**にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは**霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにして**ともに戦っていて、どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては**救いのしるし**です。それは**神によること**です。





Ⅲ. 待ち望むべきは、究極の癒し

## 【聖書が示す癒やし】

- 旧約聖書で「癒やす(ラファ、マルペイ)」という言葉は、預言者に集中。  
➡ 預言者の時代は、イスラエルの背きが最も激しくなった時。
- 「癒やす」が多く示すのは、神との関係の回復。
- 「癒やす」が旧約聖書で最も多いのが、エレミヤ書。  
➡ 捕囚と回復が、エレミヤ書のテーマ。
- そして、聖書は、メシアによる、究極的な「癒やし」を記す。

## 【イスラエルの背きの現状と将来における癒やし】

■ メシアを拒んだイスラエルは、いまなお呪いの中にいる。

「イザヤ 6:10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を固く閉ざせ。彼らがこの目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返って癒やされることもないように。」

■ しかし、神は背信のイスラエルを見捨てず、必ずいつか回復される。

「エレミヤ 3:22 背信の子らよ、立ち返れ。わたしがあなたがたの背信を癒やそう。」

「エレミヤ 33:6 見よ。わたしはこの都に回復と癒やしを与え、彼らを癒やす。そして彼らに平安と真実を豊かに示す。」

## 【イエス・キリストの十字架の贖いこそ、究極の癒やし】

「イザヤ 53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。」

- 主イエス・キリストは、私の罪のため、十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。
- この福音を信じた者は、その瞬間に救われる。  
聖書の救いとは、神との関係の回復。真実の永遠の癒し。

【神の民イスラエルが癒やされ、完全に回復される時が来る。】

ゼカリヤ12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。

■ 世の終わりの大患難時代。イスラエルへの裁きの7年間。

その最後に、イスラエルは民族的回心に至る。

■ 自分たちが十字架にかけたイエスこそ、イスラエルのメシアであると、彼らが悔い改めたその時、イエスは、王の王として再臨される。



## 【聖書の教える本当の癒しを得るために必要なこと】

- 私のために十字架に、死んで葬られ復活された、イエスこそ救い主であかけられると信じ、信頼すること。
- 天におられ、私たちの祈りを父なる神にとりなされているイエスは、究極の裁き主、王の王として、必ず戻って来られる。
- イスラエルは癒やされる。信じたすべての者も永遠に癒やされる。病も苦しみも涙もない、完全な癒やしに満ちた世界が実現される。
- 神のご計画に信頼して歩むなら、癒やされようと癒やされまいと、変わらぬ平安に満たされていく。主を信頼し、学びを深めよう。

「天のお父さま。わたしは、御子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

このことのゆえに、わたしは癒やされました。

誰にも奪うことのできない平安が、私の内にあります。

必ず実現される、永遠の平安が約束されています。

主に癒やされた者として、今を歩ませてください。

主イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」